



# 梅若研能会

## 四月公演

【雷電】梅若泰志 (前島写真店)

令和7年4月5日(土) 午後1時始 (開場12時)  
於 国立能楽堂

National Noh Theater 4-18-1, Sendagaya, Shibuya-ku, Tokyo  
Saturday 5 April 2025 Start 13:00 (door open 12:00)

### 国立能楽堂

東京都渋谷区千駄ヶ谷4-18-1  
☎03 (3423) 1331

- JR千駄ヶ谷駅 徒歩5分
- 大江戸線・国立競技場駅 徒歩5分
- 副都心線・北参道駅 徒歩7分



### 入場料 (全席指定)

指定席 A 7,000円	指定席 B 6,000円
指定席 C 4,000円	指定席 GB 5,000円

※学生は各席種 3,000円引き

### お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス) <https://eplus.jp/ath/word/69495>

カンフェティ TEL050-3092-0051 (平日10:00-17:00)

<http://www.confetti-web.com/umeken>

### 主催 公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03 (3466) 3041

〈メールアドレス〉 [staff@umewakakennohkai.com](mailto:staff@umewakakennohkai.com)

〈ホームページ〉 <http://www.umewakakennohkai.com>

YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!

Facebook フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!

### 令和7年梅若研能会 公演開催日のお知らせ

六月公演	6月21日(土)	観世能楽堂「西王母」青木一郎、「声刈」梅若志長
十二月公演	12月6日(土)	国立能楽堂「三輪」八田達弥、「俊寛」加藤眞悟



【善知鳥】伊藤嘉章 (前島写真店)

### 能「善知鳥」「雷電」みどころ講座

3月15日(土) 13:00 ~ 15:00

於・梅若万三郎家能舞台 (渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円 (※研能会入場券購入者は無料)

講師 「善知鳥」青木 健一 (あおき けんいち)  
「雷電」古室 知也 (こむろ ともや)

# 梅若研能会四月例会

令和七年四月五日(土)午後一時始(十二時開場)

於 国立能楽堂

仕舞  
竹生島 梅若 紀佳  
雲林院キリ 遠田 修

地謡  
加野 鉄音  
八田 達弥  
梅若 紀長  
中村 政裕

子方(千代童) 青木 響平  
ツレ(狐師ノ妻) 萩原 郁也

前シテ(財) 青木 健一  
後シテ(狐師) 青木 健一

## 能 善知鳥

ワキ(旅) 僧 大日方 寛  
ア イ(所ノ者) 大藏 基誠

大鼓 大倉栄太郎  
小鼓 幸 正昭

笛 槻宅 聡



青木 健一

休憩 十五分

## 狂言 成上り

(三時三十五分頃)

シテ(太郎冠者) 大藏彌太郎

アド(主人) 大藏 教義  
アド(すっぱ) 大藏 康誠

後見 大藏 章照

## 舞囃子 桜川

シテ 中村 裕

大鼓 大倉栄太郎  
小鼓 幸 正昭

笛 槻宅 聡

地謡  
梅若千音世 梅若 泰志  
中村 政裕 加藤 眞悟  
長谷川晴彦

休憩 十五分

(三時三十五分頃)

前シテ(菅 丞 相)  
後シテ(雷 神)

古室 知也

## 能 雷電

前ワキ(法性坊僧正)  
後ワキ(前 同 人)

館田 善博

ワキツレ(従 僧) 則久 英志

ワキツレ(従 僧) 渡部 葵

ア イ(能 力) 高木 謙成

大鼓 佃 良太郎  
小鼓 田邊 恭資

太鼓 梶谷 英樹  
笛 藤田 貴寛



古室 知也

後見  
梅若 紀長  
梅若 雅一

地謡  
加野 鉄音 遠田 修  
萩原 郁也 伊藤 嘉章  
梅若 志長 八田 達弥  
梅若 紀佳 梅若 泰志

(終了予定 四時三十分頃)

## 能 善知鳥 (うとう)

諸国を巡る僧が、陸奥国(今の青森県)外の浜へ行く途中、越中国(今の富山県)立山に立ち寄ると、老人(前シテ)が現れ、自分は、昨年亡くなった外ヶ浜の狐師の亡霊で外の浜に着いたら、自分の妻と子の家へ行き、簀笠を手向けて吊って欲しいと頼み、これを証憑にいい、着ていた着物の片袖をほどいて渡し、消えてゆく。

僧は外の浜に着き、狐師の妻子の家を訪ねると、不思議にもその家にあった狐師の着物には片袖がなく、僧の持参した袖がぴったりと合う。簀笠を手向け、僧が狐師を吊ると、狐師の亡霊(後シテ)が現れ、生前善知鳥をはじめ鳥獣を捕獲し、殺し続けた罪により、苦しんでいることを明らかにし、地獄で化鳥に変じた善知鳥から、責め苦を与えられる様子を見せ、僧に助けてくれと訴えて、消えてゆく。

## 狂言 成上り (なりあがり)

太郎冠者は、清水(きよみず)に参籠する主人の太刀を預かって共をするが、不覚にも眠ってしまう。その隙に都のすっぱが、太刀を青竹とすり換えてしまう。翌朝目を覚ました冠者は驚きあわてるが、青竹を隠し持って帰る道中、主人に「嫁が姑、小犬が親犬、渋柿が熟柿、山芋がウナギになるのを世上で成り上がりという」と話し……。

## 舞囃子 桜川 (さくらがわ)

貧しさゆえの母の苦勞を察して自ら人商人に身売りをした桜子を捜し求め九州日向から常陸の桜川にやって来た母(シテ)は、心乱れ、川に浮かぶ桜花を我が子・桜子と思いきい集めるのだった。

## 能 雷電 (らいでん)

平安時代。比叡山の法性房僧正(ワキ)が天下静謐の祈禱をしていると、結願の夜、先日筑紫で亡くなった菅原道真の霊(前シテ)が訪れた。かつて師弟であった二人は再会を喜び、道真は僧正への感謝を述べる。やがて道真は、これから雷神となって内裏を襲うことを明かし、参内の勅命があっても従わないで欲しいと願う。しかし僧正は、この国に住む以上、勅命が度重なるならば従わずには居られないと答える。その言葉を聞くや、道真は忽ち鬼の形相へと変じ、堂の扉へ火を吐きかけると、そのまま姿を消すのだった。

その後、案の定勅命が度重なり、内裏に召された僧正。そこへ、雷神となった道真の怨霊(後シテ)が現れた。しかしさすがの怨霊も、僧正の近くへは寄ることができず、遂に法力に屈してしまう。道真は、朝廷から神号を贈られると、そのまま去ってゆくのだった。